

小岩井かぶの播種期別収量比較試験

小林 秋雄

1. 目的

播種期を異にした小岩井かぶの収量を調査して播種適期及収量の変動範囲を知ると共に輪作体型確立の基にしたい。

2. 試験方法

(イ) 試験期間 昭和30年8月～12月

(ロ) 1区面積及区制 1区2坪 3連制

(ハ) 播種期 8月10日、17日、24日、31日 9月7日(延5回)

(ニ) 栽植密度 畦巾2.5尺 株間1.5尺

(ホ) 収穫期 12月17日

(ヘ) 施肥量(反当) 推肥300 μ 硫酸7 μ 過石5 μ 塩加1 μ

(ト) 管理 間引、除草3回、播種后35日で1本立、播種期にBHC撒布

3. 試験成績

調査項目 播種月日	反 当				合計 数量 Kg	生育 日数 日	一日 収 量 Kg	一株 最 高 当 Kg
	地上部 収量 Kg	地下部 収量 Kg	腐敗 3600 株中	萎縮 3600 株中				
8月10日	1,615.2	5,283	525	855	6,898.2	129	53.5	5,140
月17日	208.8	5,502	165	795	7,590	122	62.2	4,925
24日	1,807.8	5,442	120	435	7,249.8	115	63.0	3,770
31日	1,836	3,901.8	0	105	5,737.8	108	53.1	2,320
9月7日	1,566	1,858.2	0	255	3,424	101	33.9	1,600

4. 考察

8月上中旬に降水量少く8月10日、17日播種区の発芽は若干不揃であつたが以後の発育は各区とも良好であつた。早播区に病害多く遅播区程その被害は減少している。早播区が病害の多いにも拘らず反当収量が比較的高いのは残存1株当の重量が遅播のそれより3倍以上に発育しているためである。前作物との関係もあろうが当地方では比較的被害少く成績の良い8月17日、24日頃が播種適期と思はれる。又8月31日播と9月7日の反当収量の差は特に大であつた。